

視点(1873)

I Saw All America (その268) !!

(流通経済編) — アメリカの経済発展は革命的ライフスタイルの創出による消費の飛躍的拡大 —

(1) 経済発展のプロセス

1つの国家が経済大国や覇権国家になるためには、歴史的に3つのタイプがあります。すなわち、「スペイン・ポルトガルの後進国からの略奪型」と「イギリスの後進国の植民地化による搾取型」と「アメリカの自国民の所得増による消費向上型」があります。

産業革命(1970年代後半)が起こり、大量生産・大量販売・大量消費の経済サイクルはイギリスで起こり、その後、ドイツやアメリカ、さらに先進諸国へと波及しました(日本への産業革命の波及は19世紀後半~20世紀初め)。

産業革命により大量生産された商品を、大量に販売し、大量に消費するために、2つのタイプがあります(スペイン・ポルトガルは産業革命前の大量生産システムが出来上がっていなかった時代)。

①イギリス型(19世紀型)

大量生産された商品を後進国・未開発国を植民地化して、植民地から原材料の調達、製品の植民地への輸出、そして国内産業の振興(資本家の出現)、さらに中産階級の登場等のプロセスによる帝国主義政策により、「国富」を蓄積し、経済大国になりました。

②アメリカ型(20世紀型)

アメリカは1776年に独立し、南北戦争(1861~1865年)までは「発展途上国」、南北戦争から第1次世界大戦(1866~1918年)までは「新興国」、1919年以降は「先進国」になりました。

アメリカはスペインとの戦争に勝って、キューバやフィリピンを植民地化しましたが、イギリスのように帝国主義化するのではなく、自国の持つ豊富な資源を基に、産業を起こし、そして世界の工場へと大発展しました。アメリカは植民地からの搾取ではなく、自国民の所得を高め、自国民の消費を促進させ、自国民の消費を基軸とする経済大国を形成しました。

(2) アメリカの消費基軸の経済大国の形成のプロセス

現在のアメリカのGDPに占める消費の割合は70%で、世界の中で卓越した高さのシェアを持っています。まさに、アメリカの経済の基軸は「消費」であり、この消費の高さを形成したのが、「アメリカ流ライフスタイル」です(六車流：流通・マーケティング理論)。

日本や世界の国々の国民は、アメリカのライフスタイルが異常とは現在は思いませんが、1865年の南北戦争が終わり、国内が統一され、豊富な資源と開拓精神を持つ国民により、アメリカは世界の工場として産業経済を確立しました。そのような産業経済の発展の中で、アメリカは帝国主義とは距離を置き、自国民の所得向上による中産階級・中所得層の出現と、従来とは異なったライフスタイルを創出しました。

アメリカ人のライフスタイル(アメリカ流ライフスタイル)は、次のような要素で形成されました。

- ①世界の工場として発展した所得が国民(労働者)に還元された(特定の貴族や資本家の支配者層の影響が低かった)。そして、富裕中産階級や物欲絶対志向やファミリー幸福志向のライフスタイルが確立された
- ②イギリス支配からの独立の後に、自由主義、個人主義、平等主義の考え方が国民全体に浸透した
- ③中産階級の寡占化によるファミリー志向の両親と子供を中心とする「男女平等」「夫婦対等」「子供の自主性」等の今では当たり前な精神が確立された

これらは、アメリカが新興独立国家(支配層がヨーロッパのように存在しなかった)、開拓精神国家、資源国家、多民族国家等の特殊要因から生まれたものです。いずれにしても、この「アメリカ流のライフスタイル」は世界の国民から夢のように羨ましがられた独特のものであり、この「ライフスタイルの創出により消費を基軸とした経済大国」が誕生したのです。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之